

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1970101935		
法人名	社会福祉法人やまなし勤労者福祉会		
事業所名	グループホームわがや		
所在地	甲府市若松町6-35		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成22年11月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

①介護の基本理念として「見守り」「待つ介護」「恥をかかせない」「鍵をかけない」など意思を尊重した支援している。 ②地域の商店に日常的に利用したり、地域の行事や施設の行事にお誘いし、交流している。 ③毎月職場会議やスタッフ会議を重ね、入居者のモニタリングを中心に業務の改善など話し合い共有し、検討している。 ④施設全体で事例検討会や学習会に参加し、事例も提供している。外部の研修は積極的に参加し学びとしている。 ⑤学生の実習受け入れや、学生ボランティアや笑顔ふれあいサポーター(甲府市)、また、一般の傾聴ボランティアも受け入れしている。 ⑥食事は入居者と相談し作り、時々、外食に出かけている。 ⑦職員は日常生活の中で小さな気付き(ヒヤリハット)を報告し、共有・分析し、危険予測の向上、介護の質を高める努力をしている。 ⑧家族と話し合いながら、看取りの実践をしている。
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

毎朝、入居者の食べたい物や出かけたがたい所の希望を聞いて、実践につなげている。運営推進会議が2か月に1回行われており、地域の民生委員の意見が多く出されて検討されている。入居者数が少ないので目が届き、本人の把握がしっかりできているので、穏やかな笑顔で生活している。自室から出ると他の利用者が座っているホールがあり、その一角にある台所で、職員と一緒に料理をしたり、利用者の出来ることを皆で手分けをして、楽しみながら実施している。台所からの聞こえる音、匂いに温かい家庭の雰囲気を感じ、穏やかな笑顔で生活をしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームわがや

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(グループホーム わがや)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が地域の中で生き生きと暮らせるように、散歩や買い物、地域行事、ご近所付き合いを行い安心して暮らせるようにする。また、入居者の思いに寄り添う介護を実践し、その人らしく暮らせるように支援している。	地域の中で、利用者が生き生きと暮らせる介護を目指しており、入居者の自立性や本人の力を活かして、買い物や地域の行事に参加している。恥をかかせない介護、待つ介護、地域密着型の介護を意識して、それに基づいた介護を実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入しており、地域の防災訓練や、お祭り、清掃作業に参加している。施設発行の新聞を手配りしたり、回覧板を届けたり、また、地域の店を利用するなど、日常の散歩でも挨拶や会話を楽しんでいる。	自治会に加入しており今年ば組長をしている。地域の河川清掃や運動会、お祭り、防災訓練に参加している。入居者と一緒に回覧板を届けに行ったり、毎月発行のわがや新聞をご近所に配っており、地域の人たちとつながりが出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の組織(友の会)で認知症について講師をししたり、認知症サポーター養成研修を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、入居者のサービス提供の状況やインシデントなどを話し、現状など伝えている。参加者には助言・アドバイスを頂き、取り入れ実践している。	自治会・民生委員・消防団・地域包括の職員・利用者・家族が参加して2か月に1回開催している。「連絡網を作ったかどうか、子供達と触れ合う機会を持ったかどうか」などの提案があり、出来る所から実践している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議に参加して頂いている。欠席のときは必ず議事録と「わがや新聞」を送付している。地域包括からは必ず参加があり、仕組み等を学ぶ場ともなっている。	市の職員の参加回数は少ないが、欠席の時には議事録とわがや新聞を渡している。市の担当職員にも、事業所の内容や実情を理解して頂いている。他にも「ネットワークを作りたい」と民生委員から話があり、地域包括の方から市役所に話をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない介護を実践している。入職時には教育の一環として、身体拘束の疑似体験研修を行っている。わがや内は施錠をしない取り組みを行っている。	施錠を含めて身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。座りっぱなし、ベッドに寝かせっぱなしにならないように配慮している。「しちゃ駄目じゃん」等慣れ慣れしい言葉遣いになってしまう事があるが、相互に注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(グループホーム わがや)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の身体的、精神的変化は記録を残し、インシデント報告から分析し、状況を捉えることを話し合うようにしている。介護安全委員会を通じ新聞も発行し、施設内に掲示したり、職員に発信している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は1名の方が利用し、学習会を行った。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書・利用契約書・運営規定・看取りの方針・利用料金表等の説明を行い、理解・納得していただいた上で、契約に至っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営会議などで、家族・地域の方々より意見や要望を気軽に話す機会を設け、最近では看取りの希望が増し、見学者には伝えている。職員の態度と入居者への対応等について、アンケートを行った。概ねよい評価だったが、より一層、努力していきたい。	面会時や運営推進会議の時に話を聞くようにしている。「外出の機会を多くして欲しい」と要望があり、外食や温泉に出かけている。また、その様子を家族の方にデジカメで見せていたり、毎月のお便りで伝えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や、月2回の職場会議でも行うが、日常の中で要望や疑問を気軽に話している。	月1回のスタッフ会議で出た内容について、職場会議ではかるようにしている。「床の汚れ」の意見については、夜勤者が綺麗にするなど業務改善に活かしている。職員が何でも話しやすい雰囲気があり、提案した事が実践されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	教育制度が確立しているため、段階ごとの研修を行っている。職場会議での意見交換・情報共有を行っている。給与や労働時間は組合を通じ要望している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会が主体となり、事例検討会・学習会を開催したり、教育計画に沿い、職員が各々学ぶ機会を設け、努力している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(グループホーム わがや)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修に参加している。他施設の見学や交流する中で学んでいる。			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れて頂くように、本人の話の中から思いや今を知り、本人希望に添えるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いをうかがい、今、何に直面し、どのようなことにお困りなのか、聞かせて頂いている。また、関係が出来たところで、さらに信頼関係を構築するように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込から面談、訪問する中で本人と、家族の話の中から必要とされる事を考え、また、体験利用も視野に入れ、対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居時、生活歴を聞かせていただいたり、面会時にお聞きする話から、入居者の得意分野で職員は教えて頂き、感謝し、また、様々な場面で一緒に感動したりしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、必ず入居者の様子を報告し、相談を行い、よりよい支援方法を考えている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に帰宅したり、今まで通っている美容院にも行ったりしている。家族と職員が協力している。	通い慣れた美容院に家族と一緒に出かけたり、馴染みの寿司屋に行ったりしている。近所の人が見えて一緒にお茶を飲んだり、昔の話をして楽しんでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の生活歴や家族構成等、理解したうえで、職員が間に入り、橋渡しをしたり、支えあえるような声かけや働き掛けを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(グループホーム わがや)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された(亡くなられた)方の家族が時々、来訪し、お話をすることがある。			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のモニタリング会議や日々の記録や言動から、入居者の思いや現状を理解し、本人本位となるように支援している。	モニタリング会議の中で、一人ひとりの思いや意向を把握している。また、家族が変化に気づいて伝えてくれる。「外に行きたい」「自分だけを大切にしたい」との思いがあり、意思表示を顔に出す利用者もいるので、本人の意思を把握し思いに添っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には知り得なかった事が、信頼関係を築く中で、話して下さることも多く、職員は情報を共有し、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や健康管理表は必ず目を通し、把握している。大切な事は必ず申し送り事項とし、現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式で情報収集後は「わがや」独自のアセスメント表を活用し、入居者の言葉(思い)を汲み取り、家族の気づきや要望を伺い、入居者にとって最優先されることから、計画を立てている。	職場会議の前にアセスメント(一人の利用者の内容を全職員が書いて)会議に出し合っ て、担当者がまとめ、必要な内容を把握し、その中から目標に関するポイントを出し合い、ケアマネジャーと担当で計画を作っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中で変化や入居者の言葉を記録に残し、また、関わりのポイントを職員間で共有しながら、介護計画の必要性、見直しを行い実践に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関より、医師・看護師・セラピスト・福祉用具等、必要とされる事は、気軽に相談し、入居者にとって最良の方法を考え行っている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(グループホーム わがや)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアや学生ボランティアの協力、消防署の協力による防災訓練・地域の防災訓練・清掃活動に参加したり、活用している。毎月の有価物の回収にも協力している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで、かかりつけ医を基本的に受診しているが、身体的・病状的に往診が多くなり、回数も増している。往診時は家族が同席し、これない時は電話連絡等行っている。医師には文で情報提供を行っている。	6人中4人の利用者が共立病院の往診を受けており、後の2人の利用者は、かかりつけ医に家族が連れて行っている。往診時、家族が来られない時には、変化がない時は口頭で、変化があった時は文書を手渡している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で「いつもと違う」事は必ず、報告し、早期発見・早期受診を行っている。入居者や家族が望む事、または、看取りも含めた生活支援を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	腰痛や高熱など入退院があり、担当医や看護師と連携をとり、早期退院に努めている。協力医療機関とは連携体制がとれており、情報交換も行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の看取りの指針の説明や、介護計画者作成時・更新時に入居者や家族の気持ちや意思を確認している。体調不良時は家族と医師と十分な話し合いの中で、方針を決定している。	主治医が家族の意向を聞き、家族の気持ちを確認して対応している。希望があれば「わがや」で看取りを支援する。看取りをする時、利用者の体調が悪くなった時には、家族が泊る方もいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の生活において、体調の変化に対応したり、緊急時に対処できるように、マニュアルを作り、学習会も行っている。AED使用研修は全員が受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設・事業所、独自の防災訓練を実施している。地域の防災訓練にも参加している。安全な避難誘導を全職員が考え、体制を築いている。地域自治会の協力を得て、自治会長・民生委員・消防団長達の連絡網が出来ている。	火災は消防署、災害については地域の自治会及び消防団に連絡する仕組みができている。地域の防災訓練にも参加して、消火栓やホースの使い方等を学んでいる。消防署の協力を得て、初期消火に失敗した想定のもと避難訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(グループホーム わがや)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、入居者の人格や気持ちを尊重した対応を心掛けている。恥をかかせない事を理念として、さりげなく耳元で排洩誘導や、出来ない事を他の入居者に知られないように、声掛けに工夫し実践している。	個室にてプライバシーを守っている。人生の先輩として、言葉遣いには注意を心掛けている。トイレ誘導については、トイレと言う言葉を使わず「息子さんが来ていますよ」など、声掛けを工夫している。失禁時、失敗したことを責めないで、さりげない声かけを工夫して実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝、入居者の希望・要望を伺う時間を作り、働きかけている。日常の中で「家に帰りたい」「車に乗りたい」と希望が言える方は、実践したり、表現できない方は表情などから汲み取り、支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、体調や天気、希望を伺いその日の過ごし方を決めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力で美容院に行ったり、部屋で散髪している。長髪の方は髪結いの手伝いをしている。衣類など、選ぶ方は選ぶようにしておき、日常の化粧や顔マッサージなど行うよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に入居者と冷蔵庫の中の材料で、献立を決めたりしている。入居者の出来る事を見極め、切る・お米を研ぐ・皮むき・お茶入れなど行っている。下膳出来る方は流しに運んだり、洗い物・拭き・収納も行っている。	朝会時に何を食べたいか聞き、食材を見てもらって利用者の力を活かして楽しみながら、一緒に作っている。週に2回ぐらい野菜等の買い物に、利用者と共に出かけている。焼いたり煮たり、匂いに誘われてテーブルの前に寄ってくる利用者もいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の様子や健康チェック表を把握し、記録に残し、こまめに水分提供したり、食べ物の内容・形態を工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援を行い、夜間は義歯を預かり管理をしている。一人で困難な方は、口腔スポンジを使用し支援している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(グループホーム わがや)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々の排泄パターン表を付け、分析し誘導を行い、失敗やおむつを減らしている。日中は、綿パンツで過ごす支援を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品、起床時の冷水の提供などを行い、下剤の量を減らし、トイレで排泄できる自然排便を促す努力をしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の発案で「お風呂はくじ引き」で順番を決めたり、毎日、入浴を実施している。会話を楽しみながら、また、散歩後に入浴するなど、個々にあった支援をしている。	入浴の順番は毎日くじ引きで決めており、午後3時過ぎから30分位かけて、ゆっくり入浴している。毎日入浴される方が4人、一日おきの方が2人いる。風呂嫌いな方には、「風呂掃除をしてください」と声かけして、入浴支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の習慣や体調に合わせた個別の対応をしている。寝具の交換や布団干しなど、気持ちよく休めるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの説明書は必ず職員が読み、内容等理解したうえで、細心の注意と複数で確認した後の内服に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事を見極め、その日の体調に合わせて、外出や食事づくりを含めた支援を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者の希望を伺い、優先的に行う。日常的な外出・散歩・買い物・回覧板回し・新聞配り等を行っている。「わがや」内の外出企画は頻回に行い、楽しみのひとつとなっている。家族と一緒にいける時は、一緒に楽しむようにしている。	毎朝、希望を聞き、近所の散歩コースを歩いたり、買い物のコースを回ったり、男性職員が居る時は、大型の車に乗って出かけている。車椅子の方も出かけられるように支援している。時にはお弁当や汁物を持って、出かけられるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(グループホーム わがや)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を預かる支援はしていない。今は、希望される方もいない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときは支援している。はがきが届く時は忘れてしまうため、入居者の了解を得て、見える所に貼って置くようにしておく。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは狭いが、華美にならないように入居者の生活空間作りに努めている。室温や乾燥には十分注意を払い、声や足音などには配慮している。	共有スペースは狭いが、台所での調理する音や煮物・焼き物・味噌汁の匂いなど、テーブルに座っている利用者が、直接感じる事ができ、あたかも家庭にいる雰囲気が感じられる。壁には写真・カレンダー等が飾られていて、落ち着いた雰囲気が工夫されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで一人になる空間はなく、テラスに出たり、ベンチに座ったりと入居者同士で工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や小物を出来るだけ持ってきていただき、入居者自身が安心して居心地がよいと思える居室づくりを行っている。	居室には写真・小物・タンス等が置かれ、窓から光が差し込む部屋がある。また、利用者によっては、畳の部屋に布団を敷いての生活ができており、居心地よく過ごせるように工夫されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室には手すりが付けてあり、洗面所には腰かけて洗面出来るようにしている。テラスでの洗濯干しも、腰かけてするなど、安全に留意して行い、生活動作に合わせた、滑り止めやセンサーマットも配置している。			